



## 園長回覧板（本園の教育保育について）

### 「非認知能力を育てる4つの力」

はじめに 以前新聞記事で読んだ小学生のお子さんのお話をします。

僕は絵を描くのが大好きだ  
だから、よくお父さんやお母さんも、先生も褒めてくれる  
学校から選ばれて絵画コンクールに出品をしてもらったら、「金賞」をもらった  
家族のみんなは「金賞」を喜んで、ご褒美にと色々なものを買ってくれた  
けれど 誰も僕の絵を褒めてくれなかった  
僕は絵を描くのが、嫌いになった

絵を描くのが嫌いになったわけは、もうお分かりだと思います。  
大人は「賞」という形にこだわって上手だと言っているが、僕のことは認めてくれていないと感じたのですね。

本園の理念・基本方針・につきましては、毎年見直しを行っていましたが、平成30年度に「認定こども園教育保育要領」「保育所保育指針」の大きな改訂があることを踏まえて、特に教育保育目標につきましては、より具体的に保育内容に取り入れました。

「非認知能力」という言葉をお聞きになった方もおられると思います。

例えていうと「意欲・自尊心・やり遂げる力・感情調整力・人とかかわる力」などといった勉強や仕事など将来の人生の基盤となる力です。確かに読み書き計算など勉強は大切ですが、その学力を伸ばすためには、人生の土台となる非認知能力を育てることが重要だと言われています。

何よりも本人が「よし、やるぞ!」「頑張ってる!」「やれば出来た!」という心情・意欲・姿勢を持たなければ、学力も体力も伸びないということですね。

本園では4つの力「社会性を伸ばす力」「豊かに生活する力」「共感を持ち我慢する力」「考えて挑戦する力」を具体的な目標として掲げて、子ども達の間接力を育みたいと考えています。

そのためには、保育者の日々の努力は不可欠です。子どもへの対応については、体を使ったふれあい、子どもへの言葉かけ、個々の発達に応じた働きかけ、まわりの人との関わり、肯定的な応答などに配慮をしています。また園としては、子どもの姿を語り合う風土、職員間の共通理解で関係性をよくする、家庭や地域・養成校などに開かれた施設であること、保育全般について指導するリーダーの存在があること、課題や問題を解決していく力をもつことを、園の推進力として行っていきたいと考えています。

次回は「叱ること・褒めること」をテーマにお話したいと思います。

